

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3 【そなえる】	<p>⑳【学校・家庭・地域での日頃の備え】            社会で学習した『火事を防ぐ』の発展として、自分たちの地域では、消火栓や防火水槽、テレポートや避難所がどこにあるか自分たちで確かめながら歩き、地図にまとめる。</p>	教科（社会）

【題材】

ぼくたちができること～防災マップを作ろう～

【対象】 第4学年 51名

【実践の概要・詳細】

〈実践の概要〉

4年生は社会科「安全なまちづくり」の学習で警察署や消防署の仕事を調べる。その単元を復興教育の視点で見直し、自分の住む地域の防災について調べ、マップにまとめるという学習に発展させたいと考えた。

子どもたちの地区ごとにグループを組み、実際に自分たちの目で確かめさせることで、防災意識も高まると考えた。また完成したマップは授業参観で発表させ、保護者にも子どもたちから発信していくこととした。

〈実践の詳細〉

- ・ 防災マップ調査オリエンテーション  
 11月11日【社会1】
  - 11月12日【総合1】
  - 11月13日【社会1】
  - ・ 防災マップ調査  
 11月14日【総合・社会】
  - ・ 防災マップのまとめ11月14日【社会1】
  - ・ 取材したことをもとに学級新聞にまとめよう
- 【国語2、社会2】
- ・ 発表練習 【国語3】
  - ・ 防災マップ発表会（学年）11月30日【社会1】
  - ・ 復興学習交流会12月5日【学校行事1】

消火栓の標識



採水口  
ビルにある採水口

防火用水槽のマーク



早瀬川河川敷ヘリポートを  
探検する子どもたち



## 【授業の展開】

○防災マップ作りのために、地域の防火施設や防災施設、避難所等を探検する。  
(自分が住んでいる地区や、自分と関わりの深い地区を中心に)

○調査してきたことを探検マップにまとめる。  
(国語の学習である『学級新聞にまとめよう』  
をもとに調査結果をまとめ、発表会に向けた  
練習などの取り組みは国語の「話す・聞く」  
の学習として行った。)

- ・消防・防災施設の数を表にまとめる。
- ・担当地区の地図にシールを貼る。  
(消火栓・防火水槽・ヘリポート・避難所)
- ・探検して気付いたことをまとめる。

○発表しあう。



## 児童の感想

防災マップを作ってみて、消火栓の大切さが分かりました。消火栓があるから、火事が起きてもすぐに対応できると思います。特に家やお店の近くにあり、その数はその家やお店の数に合わせて置いていることが分かりました。自分たちが調べた消火栓や防火水槽の大切さ等を、授業参観でお家の人たちに分かってもらって良かったです。

### まとめ ○成果 ●課題

- 今回の学習を通して、自分たちが住む地域にはたくさんの防災施設や防災設備があることをみんなが押さえることができていた。そして、今後起こるかもしれない災害や震災に備えて、自分たちも防災の意識を持っていなければならないという思いをもった児童が多かった。
- 地区ごとの発表を通して、消火栓の数は人が住んでいる場所の数(戸数)に関係あること、町中には建物が多いから消火栓が多いこと、広くないとヘリコプターが止まれないから、敷地が広い学校の校庭がヘリポートになっていること等に気づいていった。
- 授業参観で保護者に知らせるといいう相手意識、目的意識があったことが良かった。
- この防災マップを活用していくことを考えていきたい。



## 保護者・地域の方の感想

4年生の防災マップは、普段車に乗っている大人は気付かずに生活していたので、休みの日にでも一緒に歩いて防災意識を高めようと思いました。小学校の校庭がヘリポートだったことも初めて知ることができ、とても良い勉強になりました。